



釜ヶ崎の炊き出し



夜まわりで野宿者に声をかける



釜ヶ崎フィールドワーク

今日は、ベジ気分！

ベジタリアンと大豆は切っても切れない間柄。少し、ベジで楽しい生活をのぞいてみませんか？

第9回日本ベジタリアンアワードにノミネートされた、野宿者ネットワーク代表の生田武志さんを、加藤裕子をご紹介します。



今月のベジーさん 生田 武志 さん
～野宿者ネットワーク代表～

●日雇い労働者・野宿者支援活動に関わって●

大阪市「釜ヶ崎」の日雇い労働者や野宿者の支援に関わるようになったのは、京都の大学に通っていた1986年の冬、あるテレビのドキュメンタリー番組を観たことがきっかけでした。自分が住む場所からさほど遠くない場所である釜ヶ崎で、毎年300人ほどが路上で餓死や凍死をしている。そんな過酷な現実に衝撃を受け、夜回りという、路上で暮らす人々に食べ物や毛布などを配ったり、高齢や病気の人が安心して休める場所を紹介したりする支援活動に参加するようになりました。大学卒業後は、「同じ生活をしないとわからないこともあるのでは」という考えから、釜ヶ崎の近くに住んで日雇いの仕事をし、貧困や虐待にさらされた地元の子供たちの支援活動にも関わるようになりました。

2000年から、貧困や野宿の問題を若い世代に伝えようと、学校などでの授業を始めました。1990年代後半以降、格差が拡大した日本では「釜ヶ崎の全国化」とも呼ぶべき現象が起っています。子どもや若者による野宿者襲撃の背景には、究極の貧困である野宿者に対する差別意識や、自分たちが置かれた苦しい状況に対する強いストレスがあるのでしょうか。僕の授業を聞いたある中学生が「ハウスはあるけどホームがない」と言ったように、安心できる居場所がない人が増えているのだと思います。

●人間の問題もひどいが動物の問題もひどい●

野宿者ネットワーク代表の生田

武志さんは、貧困や野宿の問題を広く伝えようと『釜ヶ崎から「貧困と野宿の日本」(ちくま文庫)、『貧困を考えよう』(岩波ジュニア新書)、『野宿者 襲撃論』(人文書院)などの著書をはじめとする、執筆活動を続けてきました。近年は『いのちへの礼儀 国家・資本・家族の変容と動物たち』(筑摩書房)等を通して、動物や肉食の問題についても発信をしています。

「動物の問題について関心を持つようになった最初のきっかけは、小学校低学年のとき、鳥取砂丘でラクダに乗ったことでした。何度もムチで叩かれるラクダをかわいそうに思いながら、そのラクダに乗って自分が観光をしていることに胸が苦しくなり、『将来動物のために何かする人間になろう』と思ったんです。大人になって、釜ヶ崎の支援活動に関わる中で、野宿者の人たちが野良猫などを飼い始め、避妊手術代が払えないので子猫がどんどん増えていってしまうという状況を何度も目に

しました。支援者のネットワークには動物の問題に取り組んでいる人もいて、畜産業では家畜が非常に劣悪な環境で飼育されていることや、外来生物というだけで殺処分の対象とされることなど、さまざまな動物をめぐる問題を知りました。人間の問題もひどいですが、動物の問題も本当にひどいと思います」

2024年、生田さんは『10代に届けたい5つの授業』(大月書店)の編著者として、ジェンダー、貧困、不登校、障害者差別の問題と共に「わたしたちは動物た



◎大学のハラスメントを看過しない会



◎大学のハラスメントを看過しない会



手製のベジ朝食



元野宿者の方と高校で授業

野宿者に配布したヴィーガンポテトサラダと麻婆豆腐

「外食ではハードルが高いのですが、家では肉、魚、卵、牛乳は買わないし、食べません。豆乳ヨーグルトやソイミートもよく利用しています」という生田さん。費用や人手の関係で、夜回りで配るお弁当や炊き出しのメニューをベジタリアンやヴィーガンにすることはなかなか難しいそうですが、

「動物との関係がもたらす可能性」

「海外では1960年代から動物の問題はフェミニズムや障害者の問題とも関連するものとして捉えられてきましたが、日本ではそもそも動物の問題に関する認知自体があまり進んでいないと感じています。動物という『他者』と出会うために知らなければならぬこと、たとえば給食などで食べている肉はどのようにしてつくられるのかということなどを、読者である子どもや若者に伝えたいと考えました。あまり取り上げられない問題だからか、『動物』についての章が最も興味深かった」という書評も届いています

「昔話や神話には動物が人間を助ける話がたくさんありますが、現代でも、心身の傷に苦しむ人達が動物との出会いによって解放され救われるケースがあることからわかるように、それは決してつくりごとではないと感じます。捨てられた犬や猫を世話している野宿者の人たちは、生きていくのに

先日はヴィーガンの有志の活動に協力し、ヴィーガン麻婆豆腐のお弁当を配布する試みを実現させました。

「日本では肉食関連の仕事に多くの被差別部落や在日韓国・朝鮮人の人たちが従事してきたことから、『肉を食べない』というのは、そういう人たちに對する差別だ』と言われることもあります。しかし、それは動物の問題に對する無理解から来ている言葉です。たとえば、『環境のためにゴミを減らす』と云うとき、そこにゴミ収集事業者への差別はありません。肉食をやめよう、減らそうというのもそれと同じだと思います」

生田さんは、人と人とのつながりが薄れている今の時代、動物と人との関わりに可能性を感じていると言います。



生田さんのプロフィール活動については

<https://lastdate.verse.jp/lastdate.htm>

◆野宿者ネットワーク <https://lastdate.verse.jp/network.htm>
 会員(支援/月1000円)、賛助会員(年5000円)

※「貧困と野宿を考える」授業の詳細は…
<https://lastdate.verse.jp/class.htm>

ぎりぎりの収入もあるかどうかという中で、餌代だけはなんとか確保しようとしています。彼らにとっては、犬や猫との結びつきが生きる意味であり、希望なんですね。そういう助け合いは、人間同士の関係からは得られなかったものなのかもしれません。同じいのちである動物と共に生きるってどういうことが、ぜひ多くの人に考えてほしいと思います」

手造り同様!
浮かしながらの反転動作で、均等加熱!
揚げ上がりが自然で鮮やかです。

NEW“浮かし揚げフライヤー”

- ケース誘導チェーンが1ピッチ進むごとに、生地が反転
- 温度調整は、ON/OFF制御
- 燃烧室内に高温の燃烧ガスを滞留させながら加熱
- 集中排気により、排熱の拡散防止
- 失火・空焚き・異常高温を検知、ガスを遮断
- 油量は従来機の半分以下、従って必要カロリーも減少



- 高品質
- 強火力
- 経費減

株式会社 岩瀬製作所

〒443-0046 愛知県蒲郡市竹谷町西ノ浜34 TEL.0533-68-2318 FAX.0533-67-1017

<http://www.iwa-sei.com/>



<協会事務局>
 〒532-0011
 大阪市淀川区西中島
 5-7-25 チサンマンション
 新大阪十番館505号室
 ☎ 06-6868-9860
<http://www.jpvs.org>

認定NPO法人日本ベジタリアン協会
加藤 裕子(顧問)
 著書に『食べるアメリカ人』など。